

子どもの発想と地域材による共創ものづくり

造形学部 建築学科 宮崎 晋一

背景と目的

岡崎市は、三河山地の森林と矢作川、乙川の清流を有し、豊かな自然を活かした魅力あるまちづくりを推進している。市域面積の約60%を森林が占め、その恩恵を後世に受け継いでいくために「岡崎市森林整備ビジョン」を策定し、森林の整備や森林環境教育などに積極的に取り組んでいる。一方、愛知産業大学造形学部建築学科では木造建築とものづくり教育の教育に力を入れており、令和3年度より地域創生科目「地域クリエイションワーク」を開講した。この科目は、ものづくり教育を通して、地域と学生の連携による地域資源の活用促進と交流の深化、社会貢献機会の創出を目的としている。

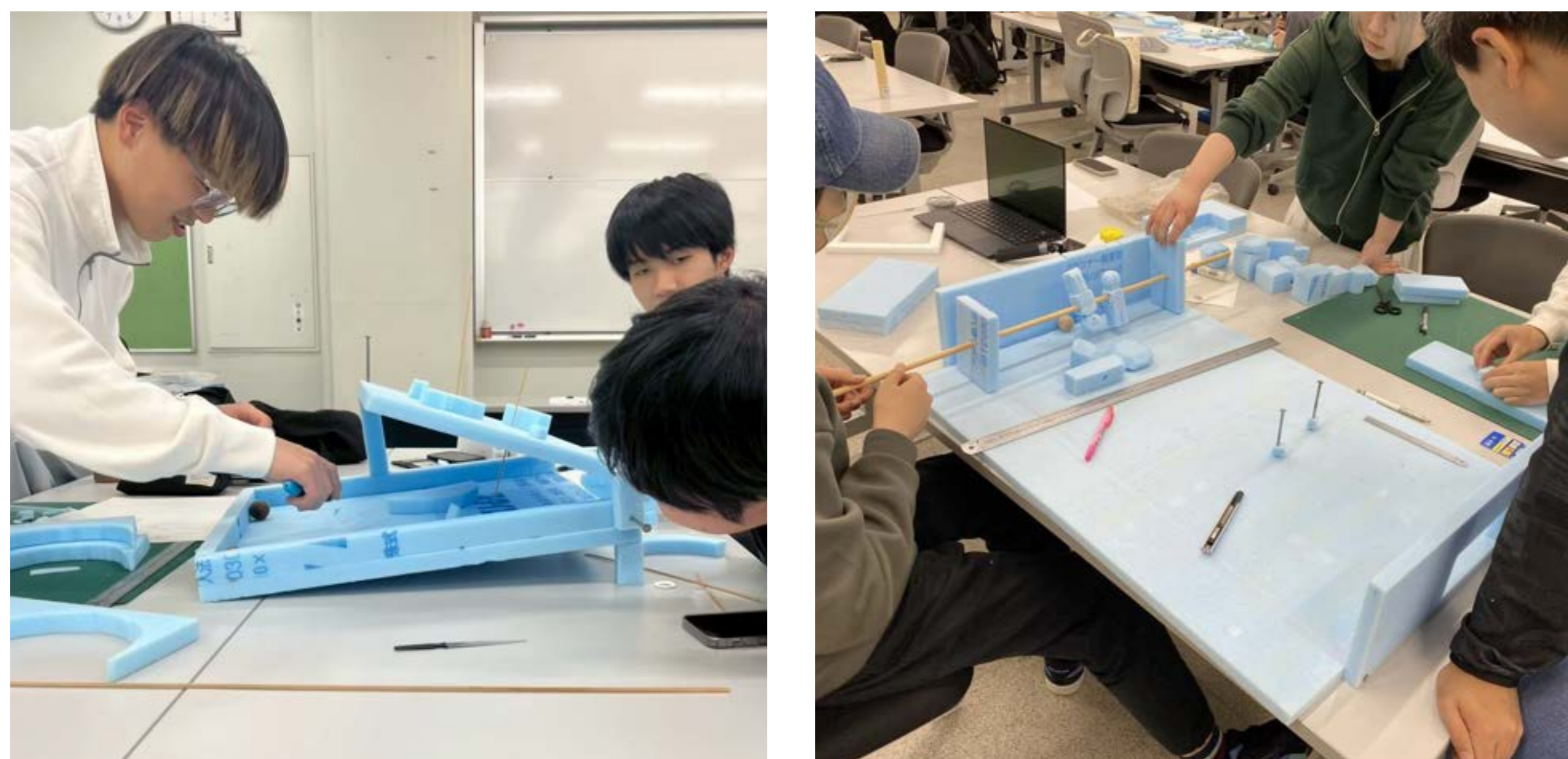
ワークショップ① (アイデアスケッチ)

藤川学区こどもの家を利用する子どもたちを対象に、「どんなことができたならワクワクするか」を想像しながら、作ってもらいたい「木のおもちゃ」のアイデアをスケッチしてもらったワークショップを行った。



アイデアの抽出と具現化

ワークショップで得られたスケッチをもとに、学生たちで話し合い、アイデアを決定した。また、ワークショップに参加した子どもたちには、担当した学生がアイデアスケッチにお礼のメッセージを添えて返却した。制作にあたり、立体が視覚的に把握できるように、BIMなどを使用してグループ内で完成イメージを共有し、あらかじめ問題になりそうな箇所や実物のスケールを確認するために試作品を制作し、検討を行った。



作品の制作

使用材料は愛知県産材の杉集成材を基本とし、必要に応じて地元の製材店の材料も活用することで、地域創生への寄与を目指す。制作では、学生が使用できる木工機械と技術指導員のみが扱う機械を区分し、安全面に配慮した制作体制を整えている。令和7年度は2グループで4つの「木のおもちゃ」を制作した。



ワークショップ② (制作発表)

藤川学区こどもの家にて、制作した「木のおもちゃ」で子どもたちに遊んでもらうワークショップを実施し、作品の検証を行った。参加者は約30名であり、参加した子どもたちからお礼の手紙をいただいた。この活動で得た知見を蓄積し、地域の企業とも連携しながら、商品開発や地元産木材の活用などの社会貢献につなげていきたいと考えている。

